- 日本では日露戦争後から知識人を中心に護憲運動が展開されてきた．
- 第一次世界大戦直後，シベリア出兵にともない米騒動が起きた．
- その直後，政党内閣の原敬内閣が成立した．
- 米騒動以後，普通選挙を求める民衆運動が高まった．
- 1925年に普通選挙法と治安維持法が定められた．
- 第一次世界大戦を経て日本は工業国に変わり，輸出の急増で物価は上がった．
- 労働者が増え，労働運動がさかんになり，農村でも小作争議が起きた．
- 中等教育が普及し，欧米の学問が学生に大きな影響を与えた．
- 文学や芸術にもヨーロッパの影響を受けたものが広まった．
- 市民生活も大衆化され，交通やレジャーが発達した．

ここにA，B，C，Dの４人の社会科教師がいるとしよう．この４人は指導計画の作成において，以下のように，教科書をそれぞれ違う読み方で読んでいった．指導計画はそれぞれどのようなものになるであろうか．

＜教師Aの場合＞

護憲運動から普通選挙まで１時間でやれるだろう。ここでの重要事項は護憲運動、米騒動、普通選挙、治安維持法、大正デモクラシーであり、それぞれの用語の意味と年号は指導上不可欠である。これにかかわる人物として吉野作造とその主張である民本主義、原敬とその政治形態である政党内閣ということも押さえておこう。ただし、子どもの興味を起こすためにはエピソード的なものが必要なので、米騒動については、この教科書よりももう少し詳しい資料を用意しておこう。ただしあまり時間がないので深入りすることのないよう注意する必要がある。

＜教師Bの場合＞

教科書によれば、第一次世界大戦前から護憲運動が展開され、戦後シベリア出兵にともなって物価が上がり、米騒動が起きたという。米騒動には何と自国の軍隊が出動して自国民を鎮圧したという。すると、護憲運動を展開していた人々は、米騒動をどう見たのだろう。民衆に加わって運動を続けたのだろうか。さらにその後、政党内閣の原敬内閣が成立したという。しかし米騒動の原因となった物価の高騰はどうなったのだろう。原敬内閣は物価対策に成功したのだろうか。また護憲運動に対して何をしたのだろうか。教科書の展開でいくと、子どもたちは、こういう疑問を感ずるのではなかろうか。

＜教師Cの場合＞

教科書によれば、第一次世界大戦前からの護憲運動は、主として新聞記者ら知識人によるものだという。このような知識人層による運動という意味では、明治期にも自由民権運動があり、護憲運動もそのようなものかも知れない。しかし第一次世界大戦後の、全国で参加者70万を越えたという米騒動や、東京で５万人余の集会になったという普通選挙運動など、民衆によるこの種の規模の運動は日本で今までになかったはずである。なぜこの時代には、大規模な民衆運動が噴出したのか。この時代をどう理解すればよいのか。教科書にはこういう時代解釈がないために、子どもたちは雑多な事象を大きくとらえて理解しにくいのではなかろうか。

＜教師Dの場合＞

教科書の内容で、一番おもしろく追求できそうなところは、大正時代には市内電車や自動車が走るようになったとか、郊外電車や百貨店ができてレジャーが発達したとか、ラジオ放送が始まったなどという市民生活の変化である。こういう生活文化史的な話題は、教科書では数行程度でしかふれられていないが、これを話題に追求すれば非常に深まりのある大正時代理解が形成できる可能性がある。普通選挙とか政党内閣などの問題は、市民生活の変化を追っていく過程でかかわってくる問題であるので、最初から政治史をやるよりも、市民生活に視点を置いてやる方がずっと歴史が身近に感じられるし、歴史を自分の感じ方で理解できるはずである。

A

単元のねらい

第一次世界大戦後の我が国にもたらされた，政治・経済・社会・文化における大きな変化を理解させる．

単元の展開

1．護憲運動と普通選挙制の成立（本時）

第一次世界大戦前の護憲運動から米騒動を経て政党内閣の成立・普通選挙制の成立までの政治的な流れを概観する．

2．工業の発展と労働運動の高まり

第一次世界大戦に伴う日本の工業化と経済の急速な発展，および労働者の増加による労働運動の発展など，経済・社会の流れを概観する．

3．大正時代の文化と市民生活

新しい文学と教育の動き，市民生活の変化を概観する．

本時の目標（第1時）

- 第一次世界大戦前から護憲運動が高まっていたことを理解させる．
- 大戦後，米価の高騰により米騒動が起こったことを理解させる．
- 原敬が政党内閣を組織したことを理解させる．
- 大正デモクラシーの運動が高まり，普通選挙制と治安維持法が定められたことを理解させる．

本時の指導計画（第1時）

学習事項の要点	指導上の留意点
1．護憲運動の高まり ・護憲運動（1912～） ・吉野作造「民本主義」普通選挙を主張 2．米騒動（1918） ・ロシア革命　→シベリア出兵 買い占めで米価の急騰 ・富山県での主婦の騒動に始まり，全国に波及 →　政府　軍隊出動で鎮圧 3．政党内閣の成立 ・立憲政友会の原敬 大臣をすべて政党から選んだ政党内閣 4．普通選挙制の成立 ・大正デモクラシーの高まり 普通選挙運動　　婦人参政権運動 ・男子普通選挙の実現（1925） ・治安維持法の制定（1925）	●辛亥革命などアジアの民族運動の動きにふれる． ●議事堂前の騒然とした写真を見せ，雰囲気を伝える ●米騒動を伝える新聞記事を用い，騒乱のようすを生き生きと伝える． ●朝鮮での三一独立運動にふれ，日本でも日比谷公園で普通選挙を求める5万人の集会があったことに着目させる． ●普通選挙をめぐる各政党の動きについては，深入りしない． ●治安維持法が制定された意味について，よく押さえておく．

B

単元のねらい

米騒動における人々の動きを追跡し，その背景と意義を理解する．

単元の展開

1．米騒動の発生と収拾

米騒動の勃発から収束までの過程を細かく追い，その展開に対する疑問点を出し合う．（なぜ全国に広まったのか，どうやって情報を知らされたのか，なぜ鎮圧がむずかしかったのか，など）

2．米騒動の背景（本時）

護憲運動などに刺激された大衆運動の盛り上がり，第一次世界大戦後の物価上昇，工業化，都市化などという社会の変化の中で，米騒動が起こる可能性を理解する．

3．米騒動への対応

米騒動収束後の政党内閣，普通選挙制が成立した必然性を，労働運動などの高まりの中で理解する．

4．米騒動の成果と意義

米騒動以降，物価は下がったのか，労働者や市民の生活は安定したのか，などについて，市民生活や文化を通して考察する．

本時の目標（第２時）

米騒動の起きた背景に，①第一次世界大戦に伴う好景気と，それによる物価の急上昇と民衆の生活難，②好景気で急成長した成金への反感，③工業化による都市の労働者の増加，④政府の専制とそれに反対する知識人・新聞記者らによるデモクラシーの運動，⑤ロシア革命に関する情報，などがあることに気づき，これらを総合して米騒動が起こり得たことを理解する．

本時の指導計画（第２時）

検討対象となる行為	別の可能性への問い	叙述	検討のための背景
1．富山県で主婦らが米の廉売を求め，米屋に押しかけた．	なぜ米が原因で騒動になるのか．このころ，一般に人々は何を食べていたのか．米以外に食べるものがなかったのか．		●大戦中の好況で都市の人口が激増し，米のかわりに麦やひえなどを用いていた農家も，養蚕などの収入の増加によって米を食べるようになっていた．（経済の発展）
2．この動きは各地に広がり，全国的な民衆運動となった．	他の都市で米騒動が起こっていることを，人々はどうやって知ったのか． 他の都市のことは対岸の火事ではないのか．なぜ自分たちも起こそうとするのか．		●新聞記者が新聞で連日報道し，政府の責任を追及した．（護憲運動の延長） ●物価の急上昇は全国的で，しかも他都市では団結して米屋に押しかければ廉売を勝ち得ていた．（大戦中の好況と成金）
3．騒動は２ヶ月間にわたり70万人以上が参加した．	人々はなぜ，騒動に参加しようと思ったのか．危険ではないのか． なぜ米屋などを襲い，政府や国会に押しかけなかったのか．		●都市には日雇い労働者・職人ら収入の乏しい不安定な労働者が多くなっていた．（工業化・都市化） ●民衆は組織されず，民衆を代表する政党も議員もなかった．（普選運動）
4．政府は軍隊まで出動して鎮圧した．	自国民に軍隊を向ければ軍の信用は失われるではないか．他に対策はなかったのか．たとえば米価を下げることはできなかったのか． 労働者の生活向上のための方策はなかったのか．		●外米の輸入を試みたことがあったが，地主に気を使って消極的な対策にとどまった． また政府側にはロシア革命のことも念頭にあった．

参考文献　今井清一『日本の歴史23　大正デモクラシー』中央公論社
江口圭一『体系日本の歴史14　二つの大戦』小学館

C

単元のねらい

大正デモクラシーとは何であるのか．その歴史上の概念を構造的に理解する．

単元の展開

1．大正時代の概観

大正期の出来事や現象を概観し，明治期と比較してどの点に特徴がみられるか，各々の見方を出し合い，民衆運動が広く展開している点に気づく．

2．「デモクラシー」の内実

民本主義，社会主義，人道主義などを分析し，民衆運動をささえたデモクラシーの動きや思想は，どのような考えに基づいているのかを解明する．

3．諸思想の社会的基盤（本時）

上のような思想は，なぜこの時代にあらわれてきたのかを考え，それぞれの思想の担い手に着目しながら社会構造の変化をつかむ．

4．政党内閣成立の意味

政党内閣や普通選挙制の成立について，その意味を，明治以降の国家体制と経済の発展の中で考える．

本時の目標（第３時）

大正デモクラシー期における思想の発展は，「軍事強国」と「経済弱国」という二面性の中で，第一次世界大戦の影響下で経済が歪んだ発展をとげた結果，国家体制に内在する「天皇専制」と「立憲主義」との矛盾が，「立憲主義」への統合に向かう運動として現れた現象であることを理解する．

本時の指導計画（第３時）

主要な問い	下位の問い	資料	到達させたい知識
1．大正時代の民衆運動は，明治期の自由民権運動などとどこが違うか	1-1．民衆運動を推し進めた中心的な思想は何か		●民本主義，社会主義　また運動を広くとれば文学史の「白樺」における人道主義，教育思想としての児童中心主義も含まれる．
	1-2．運動の担い手はどのような人々か		●第一次世界大戦前までは，主に知識階層が担っていたが，大戦後は民衆一般にまで浸透した．
2．なぜ大正時代の運動は，そのように変わったのか	2-1．日本の産業構造と社会はどう変わったのか		●輸出用工業製品を中心に，工業国へ転換し，都市型社会に変化した．
	2-2．なぜそのように変わったのか．国際環境から考えると何が言えるか．		●大戦により，ヨーロッパ諸国の経済は麻痺し，日本も一時的に影響を受けたが，軍需品やアジアへの輸出が増え，工業生産が急速に伸びた．
	2-3．「民本主義」の運動は，どこから広まったのか．		●吉野作造の論が，新聞・ジャーナリズムに歓迎され，特権的政府批判の理論的武器として広められた．
	2-4．社会主義運動の担い手は，どこから現れたのか		●重化学工業の発展で男子労働者数が増え，労働組合の組織が広まり，ストライキも増加した．
3．大戦による好景気にもかかわらず，米騒動や労働運動の激化など社会不安が増大するのはなぜか	3-1．物価の上昇にともなって労働者の賃金は上昇しているか		●労働者の賃金は物価の上昇に追いついていない．
	3-2．なぜ賃金はあまり上昇しないのか		●大戦による好況は輸出によるもので，国内の消費物資の供給に反映せず，賃金は低水準を保った
	3-3．労働者が貧しいのに成金が出るのはなぜか		●国内の購買力に期待しなくとも，輸出で高い利潤が得られた．

参考文献　江口圭一「1910―30年代の日本」『岩波講座日本通史18』岩波書店
江口圭一ほか『シンポジウム日本歴史20　大正デモクラシー』学生社

D

単元のねらい

「なぜ大正時代には童謡が数多くつくられたのか」という問題を通して，この時代の市民生活と経済的背景，およびこの時代に特徴的な思潮をとらえる．

単元の展開

1．大正時代の童謡とはどんな歌か．

大正時代の童謡を集め，それらが発表された年にしたがって年表に記入し，どんな出来事があった頃につくられたのか確認する．

(「唄を忘れたカナリヤ」と「米騒動」，「夕焼小焼」と「関東大震災」がほぼ同じ時期であることがわかる．)

2．大正時代の童謡はどこに特色があるか

明治の小学唱歌や外国の童謡とも比較して，その特色をつかむ．特に，童謡というよりむしろ歌曲に近いほどの音楽性の高さに注目する．

3．なぜこのような歌がつくられたのか．（本時）

大正時代の童謡の個々の歌を取り上げ，そこに何が歌われているかを分析し，その歌がつくられた市民生活や経済的背景を読み取る．

4．大正時代の童謡は，なぜ優れたものになったのか．

作詞者，作曲者はどんな人物かを探り，当時の第一線の詩人と作曲家であったことから，彼らが子どものための詩と曲を作ろうとしたことの意味を，当時の児童中心主義の思想における「子ども」のとらえ方の中で考える．

本時の目標

当時の歌に取り上げられている事物・題材から，当時の人々の生活実態を探り，それをささえている当時の経済的背景を考える．

本時の指導計画

問　い	学習活動	情　報
1．「靴が鳴る」(1919) は何を歌っているか ①当時，子どもは革靴をはいていたのか ②「靴」とは当時どのように考えられていたのか 2．「赤い靴」「青い目の人形」(1921) は何を歌っているか ①当時，アメリカと日本の関係はどうだったのか ②アメリカのものを日本人は当時どう考えていたのか 3．異国・異郷の歌がつくられたのはなぜか ①「月の砂漠」(1923) はどこの情景か．なぜ日本人が歌えるのか． ②「砂山」(1922)，「波浮の港」(1924) など，「ご当地」の歌が多くつくられたのはなぜか． 4．このような歌を生み出した当時の日本人は，どんな生活をしていたのか． ①メディアや交通はいかに利用されたか． ②西洋の生活様式は，どの程度庶民に浸透していたか． ③国民は，経済的には苦しかったのか．	歌詞を読み，右のような情報から，歌詞の意味を考える． また，都会の豊かさや移民など，右の情報にある背景も合わせて考える 上で考察した歌を踏まえて①〜③の問題を考える．	●当時，子どもに革靴を買い与えることができるのは，ある程度豊かな都会の一部の家庭だけであった． ●この当時は，ちょうどアメリカ大陸への移民ブームのピークであった．一方アメリカでは移民を制限する立法が行われ，日米関係は緊張し始めていた． ●このころ，工業化・都市化に伴い，農村から都市への人の動きが活発になり，交通機関も発達した．また，新聞の普及やラジオ放送の開始などにより，人々は遠い異国のことにも，日常的に接するようになった．

参考文献　『日本のうた・ふるさとのうた100曲』講談社

赤い靴

赤い靴　はいてた
女の子
異人さん（いじんさん）に連れられて
行っちゃった ／
横浜の　はとばから
船に乗って
異人さんに連れられて
行っちゃった ／
今では　青い目に
なっちゃって
異人さんのお国に
いるんだろ ／
赤い靴　見るたび
かんがえる
異人さんに逢う（あう）たび
かんがえる

靴が鳴る

お手つないで　野道を行けば
みんな可愛い　小鳥になつて
唄をうたへば　靴が鳴る
晴れたみ空に　靴が鳴る

花をつんでは　お頭にさせば
みんな可愛い　うさぎになつて
はねて踊れば　靴が鳴る
晴れたみ空に　靴が鳴る

青い眼の人形

青い眼をしたお人形は
アメリカ生れ（うまれ）のセルロイド
日本の港へついたとき
涙をいっぱい浮かべてた
わたしは言葉がわからない
迷子（まいご）になったらなんとしょう
やさしい日本の嬢ちゃん（じょうちゃん）よ
仲よく遊んでやっとくれ
仲よく遊んでやっとくれ

砂山

海は荒海（あらうみ），向ふは佐渡（さど）よ，
すずめ啼け啼け，もう日はくれた。
みんな呼べ呼べ，お星さま出たぞ／
暮れりゃ砂山，汐鳴（しおなり）ばかり，
すずめちりぢり，又風荒れる。
みんなちりぢり，もう誰も見えぬ／
かへろかへろよ。茱萸原（ぐみはら）わけて，
すずめさよなら，さよならあした，
海よさよなら，さよならあした

波浮の港

磯の鵜（う）の鳥ゃ　日暮れにゃかえる
波浮（はぶ）の港にゃ　夕やけ小やけ
あすのひよりは
ヤレホンニサ　なぎるやら／
船もせかせりゃ　出船のしたく
島の娘たちゃ　御神火（ごじんか）ぐらし
なじょな心で
ヤレホンニサ　いるのやら／
島で暮らすにゃ　とぼしゅうてならぬ
伊豆の伊東とは　郵便だより
下田港とは
ヤレホンニサ　風だより／
風は潮風　御神火おろし
島の娘たちゃ　出船のときにゃ
船のともづな
ヤレホンニサ　泣いて解く／

月の砂漠

月の砂漠を　はるばると
旅のらくだが　行きました
金と銀との　くら置いて
二つならんで　行きました／
金のくらには　銀のかめ
銀のくらには　金のかめ
二つのかめは　それぞれに
ひもで結んで　ありました／
先のくらには　王子さま
あとのくらには　お姫さま
乗った二人は　おそろいの
白い上着を　着てました／
ひろい砂漠を　ひとすじに
二人はどこへ　いくのでしょう
おぼろにけぶる　月の夜を
対のらくだで　とぼとぼと
砂丘を越えて　行きました
だまって越えて　行きました／